

Q³²

ガウンテクニックを必要とする状況について教えてください。また、ガウンは使用するたびに使い捨てにする必要があるのでしょうか？

A

標準予防策(スタンダード プリコーション)では、患者への医療処置行為の際に、医療従事者の皮膚、ユニホーム等が血液や体液で汚染するおそれがある場合に必要となります。この場合、患者の感染症や疾患などに関係なく、すべての患者が対象となります。

多剤耐性菌による感染症や急性ウイルス性胃腸炎などの際に適用する接触予防策では、その感染症患者を収容している病室に入室する際に、必要となります。患者ケアの際に、接触感染する微生物が医療従事者のユニホームに付着し、他病室に拡散したり、医療従事者自身に職業感染を起こさせたりすることを防止するのが目的です。

ガウンは、その素材やデザイン、防御性能、価格などを着用目的に照らし合わせて総合的に選択する必要がありますが、血液や体液が容易に染み込んでくるような布製素材では目的を達しえません。防水性、非透過性は必須条件です。

一方、デザインは、曝露が予測される状況や程度、範囲などにより選択が必要です。曝露量も範囲もさほど多くなく限定されるようであれば、着脱が簡便で比較的安価なエプロンタイプが推奨されます。曝露量が多く広範囲であれば、襟周りもしっかり覆え、前胸腹部に開閉や縫い目のないガウンタイプを選択します。

ガウンやエプロンは、患者ケアが終了したら速やかに脱いで廃棄します。使い回しは、表面に付着した血液や体液、微生物などの感染性物質への曝露リスクが、使い回す医療従事者とケアを受ける患者と双方に発生することになります。経費は節減できても感染対策の目的は達成されません。

文献

- 1) 洪 愛子編：ベストプラクティスNEW感染管理ナーシング。学習研究社，東京，2006.
- 2) 廣瀬千也子監修：感染管理QUESTION BOX2。標準予防策と感染経路別予防策，中山書店，東京，2005.

(大友陽子)